

テンプレス

TEMPUS

2022年(令和4年) **76**号



国宝孝恩寺観音堂の現況（令和4年1月撮影）

も く じ

国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理 その5

貝塚市郷土資料展示室企画展「貝塚八城めぐりー守護代・根来寺・雑賀衆・百姓の城ー」関連行事
第122回かいづか歴史文化セミナー
講演会「千石堀城跡と和泉国の城館跡調査」

第123回かいづか歴史文化セミナー
／現地見学会「天正13年貝塚の戦争～三つの城跡を見に行こう～」

小学校・幼稚園巡回展示「東京2020オリンピック聖火リレー トーチ」
／東京2020オリンピック聖火リレー トーチー貝塚市歴史展示館の展示資料から⑤ー

まちの駅 かいづか「貝塚の民話」絵本原画展を開催しました
／教育力向上研修を開催ー学校教育に文化財活用の取り組みを図るー

古文書講座ー市内に残る身近な古文書ー 「庄屋日記に見る農事暦と年中行事」
／地域の歴史を検証 その1 「岸和田城天守閣が落雷により焼失」

文化財講座・セミナー・展示

国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理 その5

木積（こつみ）にある孝恩寺では、本堂である観音堂（釘無堂）の保存修理工事が進められています。令和4年1月には、屋根瓦の葺（ふ）き替えや漆喰（しっくい）壁の塗り直しなどが終了し、工事中に観音堂の周囲を覆っていた素屋根（すやね）が解体され、外観の修理を終えた観音堂がその姿を現しています（表紙写真参照）。本号では、前号及び前々号（74・75号）で紹介した屋根の葺き替え工事と並行して進められてきた漆喰壁や観音堂内部の修理工事について紹介します。

漆喰壁の修理工事

傷んだ漆喰壁は、壁土を全て落とし、下地となる木舞（こまい／割竹（わりたけ）を柱や貫（ぬき）などに縦横に取り付けて縄（なわ）で編んだもの）を残して解体していました。まず傷んでいた割竹や木舞縄を新しいものと交換した（写真①）後、壁の塗り直しが行われました。壁の塗り直しは、まず、木舞に荒壁土（あらかべつち）を塗り上げる荒壁付（あらかべつけ）（写真②）、中塗土（なかぬりつち）を塗り上げる中塗（なかぬり）がそれぞれ乾燥期間を挟んで行われ、最後に消石灰（しょうせっかい）などを原料とした漆喰を塗り上げる漆喰塗（しっくいぬり）が行われ、真っ白な漆喰壁が復元されました。



①壁の下地となる木舞の修理



②壁の塗り直し 荒壁付

観音堂内部の修理工事

観音堂内部は、床下の一部部材の補修や調査を行うため、外陣（げじん）の床板を全て解体していました。解体中には、内外陣の棧唐戸（さんからど）や蔀戸（しとみど）といった建具の修理などが行われた他、床下の大引（おおびき）や根太（ねだ）などの部材について、他の部材から転用された古い痕跡がないかといった調査や部材の年輪年代を測定する調査（これらの調査結果については現在分析中で、令和4年度に刊行予定の修理調査報告書に収録される予定です）も行われました。

床板は、まずきれいに洗浄された後、新しい木材を貼り合わせる矧木（はぎき）や穴の開いた部分を木で埋める埋木（うめき）（写真③）による補修が行われました。復旧にあたっては、床板を支える根太の一部が「令和元～三年度修補」の焼印が押された新しい材に交換され、高さ調整をしながら大引の上に設置されました。その上に床板が厚さ調整をしながら設置され、外陣の床が復旧されました。



③外陣床板の補修 埋木作業

外陣の床が復旧された後、建物の上部の柱などを修理するために内部に足場が仮設されました。また、内陣の仏壇廻りの黒漆塗（くろうるしぬり）が行われ、乾燥期間を挟んで、金箔の押直しも行われました。

※国宝孝恩寺観音堂の保存修理事業は令和4年7月で終了する予定です。

修理工事でわかった建立当時の木材の加工方法

鎌倉時代後期に建立されたといわれる孝恩寺観音堂ですが、柱や板の中には、建立当時の加工の痕跡が見られる部材があることが修理工事で明らかになりました。

原木から柱や板を製材するには、現在は縦挽（たてび）きのノコギリ（鋸）で加工しますが、鎌倉時代には、木を切る時に使用する横挽（よこび）きのノコギリしかありませんでした。木を縦方向に加工するには、ノミ（鑿）やクサビ（楔）を使って打ち割る方法でした。写真④は、打ち割りの痕跡がある部材です。

当時の柱の表面を加工したのは、チョウナ（鉋）という柄（え）に対して直角に刃が付くヨコオノ（横斧）で、木の表面を粗く加工していました（写真⑤）。さらに表面をきれいにしたのはヤリガンナ（鉋）という槍の穂先に似た刃を木製の柄につけた工具で、木材の表面を削って仕上げていました（写真⑥）。

これらの加工の痕跡は、いずれも建立当時のものです。時代によって使用する大工道具が変わることから、痕跡を観察することで、加工の方法や時代を読み取ることができます。明らかになった成果を参考に修理工事は進められています。



④打ち割りの痕跡がある部材



⑤チョウナの痕跡がある部材



⑥ヤリガンナの痕跡がある部材

貝塚市郷土資料展示室特別展「国宝孝恩寺観音堂（釘無堂） 令和の大修理Ⅱ」

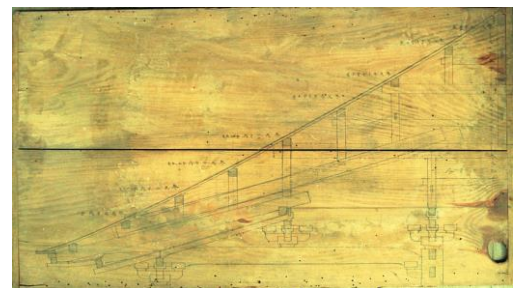
保存修理事業の進捗状況を中心に、孝恩寺に残る文化財などについて紹介します。

会 期 令和4年3月10日（木）～4月24日（日）

会 場 貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）

観覧料 無料

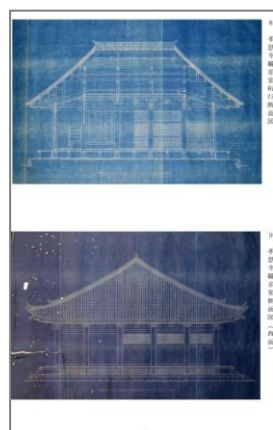
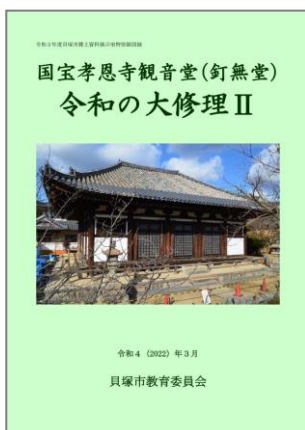
休室日 火曜日、3月21日（月）、3月31日（木）



孝恩寺観音堂板図 大正時代

令和3年度貝塚市郷土資料展示室特別展図録

「国宝孝恩寺観音堂（釘無堂） 令和の大修理Ⅱ」刊行のお知らせ



上記特別展の展示図録を刊行いたします。本書は、「国宝孝恩寺観音堂」の過去の修理に関する資料や保存修理事業の写真などの図版を掲載した展示解説の図録です。

お求めは社会教育課または郷土資料室まで
令和4年3月12日発行

A4判32頁 1部300円

※郵送でのご購入を希望される場合は、8頁記載の住所、社会教育課あてに代金（郵便小為替）と送料215円（切手）をお送りください。

第122回かいづか歴史文化セミナー

講演会「千石堀城跡と和泉国の城館跡調査」

令和3年11月14日（日）午後1時30分から、貝塚市民図書館2階視聴覚室にて、城郭談話会会員の福島克彦さんを講師としてお招きし、各地に残る城跡と貝塚市内の城跡を比較紹介する講演会を開催しました。

貝塚市内の根福寺（こんぶくじ）城跡では、福島さんが絵図に描かれていない堅堀（たてぼり、斜面に掘られた縦方向の堀）を現地で発見したこと、千石堀城跡では、戦いに際して急きょ造った陣城（じんじろ）と違い、二重の堀を設けた堅牢（けんろう）な城であることなどが明らかにされました。

講演会は、参加人数を限定して開催し、28名の方にご参加いただきました。参加者のみなさんには、講演会の後、社会教育課学芸員の案内により、郷土資料展示室で開催中の企画展を見学いただきました。

第123回かいづか歴史文化セミナー

現地見学会「天正13年貝塚の戦争～三つの城跡を見に行こう～」

令和3年12月11日（土）午後1時から、和歌山城郭調査研究会代表の白石博則さんを講師としてお招きし、天正13（1585）年の羽柴（豊臣）秀吉の紀州攻めに登場する三つの城跡をめぐる現地見学会を開催しました。

まず、郷土資料展示室で企画展を見学した後、水間鉄道に乗り清見（せちご）駅へ移動しました。駅より徒歩で、北東方向に位置する槍ヶ谷（やりがたに）城跡の麓（ふもと）へ向かいました。この城と、隣接する落合（おちあい）城に秀吉の本陣が置かれたこと、高台にあるこの城から、敵対した勢力が籠城（ろうじょう）した高井城（百姓の城）・千石堀城（根来寺の城）をかつては一望できたことを確認し、二つの城跡へ向かいました。

高井城跡は、宅地造成で大きく景観が変わり、一部が公園として残っています。近木川の河岸段丘を利用した城跡の形状を確認し、周辺から採取された瓦（企画展の展示資料）の発見から、もともとあった寺院に手を加えて城が造られたことを解説しました。

千石堀城跡は、城の入口である虎口（こぐち）の形状等が実感できる状況を残しています。参加者のみなさんは企画展を振り返りつつ、城跡（75号参照）の要所を見て回りました。

現地見学会は、参加人数を限定して開催し、29名の方にご参加いただきました。また、城跡の発掘調査成果などの考古学的な解説を社会教育課学芸員が担当しました。



福島さんの講演に
耳を傾ける参加者のみなさん



現地見学会の様子
槍ヶ谷城跡の麓付近



高井城跡（公園）



千石堀城跡（本丸南側）

小学校・幼稚園巡回展示

「東京2020オリンピック聖火リレー トーチ」

令和3年10月7日（木）から令和4年1月27日（木）まで、市内11ある小学校と、小学校の敷地でない3つの幼稚園で、巡回展示「東京2020オリンピック聖火リレー トーチ」を1週間ずつの期間で開催しました。

東京2020オリンピック・パラリンピックが閉幕して1か月、興奮も冷めやらぬ中、展示をスタートしました。

トーチの大きさや輝きなど、実物を目にした子どもたちは展示ケースをのぞき込み、食い入るように見てくれました。



トーチをのぞき込む子どもたち

東京 2020 オリンピック聖火リレー トーチ

- 貝塚市歴史展示館の展示資料から⑤ -

現在、小学校と幼稚園の巡回展示で展示した聖火リレーのトーチは、半田にある貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）で展示しています。

大阪府内での東京2020オリンピック聖火リレーは、新型コロナウイルス感染拡大のため、府内全域の公道での聖火リレーが中止となったことから、令和3年4月13日（火）・14日（水）に吹田市の万博記念公園で行われました。

2日目の14日には、貝塚市内から3人のランナーが参加され、それぞれの思いを胸に、笑顔で約200mを駆け抜けました。

この聖火リレーで使われたオリンピック聖火を灯すトーチは、全長71cm、重さ1.2kgで、主にアルミニウムを素材として作られています。色は桜ゴールドで、先端の形は、日本を代表する花、桜をモチーフにしたデザインです。新幹線の製造にも使われている技術を用いて、継ぎ目のない、ひとつなぎのトーチとなっています。また、雨や風など、どんな天候でも燃え続けるよう、日本の技術者たちの工夫が施された最先端の道具でもあります。



東京 2020 オリンピック聖火リレー トーチ

歴史展示館では、市内の聖火リレーで使われる予定だったバックパネルや聖火ランナーが着用した公式ユニフォームなどもあわせて展示しています。ぜひ、歴史展示館で実物をご覧ください。

まちの駅 かいつか「貝塚の民話」絵本原画展を開催しました

令和3年11月5日（金）から12月23日（木）まで、南海本線貝塚駅改札口向かいのまちの駅 かいつか（貝塚市観光案内所）において、「貝塚の民話」絵本原画展を開催しました。

「貝塚の民話」の絵本原画は、本市教育委員会が進めている「貝塚学」事業の一環として、大阪府立貝塚高等学校の総合学科の3年生に制作を依頼しているものです。作品をより多くの方に見ていただくために、毎年まちの駅 かいつかでの展示を行っています。展示では、週替わりで、「雨乞（あまご）いの神様」、「牛神（うしがみ）さまの平石」、「お夏清十郎（せいじゅうろう）物語」、「岸の姫松」、「津田のみい（蛇）さん」、「天女の櫛」、「八品（やしな）の道具」の7つの民話に関する絵本原画作品と切り絵作品を紹介しました。



まちの駅 かいつかでの展示

また、教育委員会では、今年度制作された作品の中から「お夏清十郎物語」を小学校6年生用の貝塚学用教材の原画として採用し、配付した他、現在社会教育施設などでも配付しています。

教育力向上研修を開催—学校教育に文化財活用を取り組みを図る—

令和3年11月17日（水）、貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）において、小・中学校の新入教職員のみなさんを対象に「教育力向上研修」を行いました。まず、歴史展示館の前身である大日本紡績株式会社貝塚工場の歴史、「ニチボー貝塚」バレーボールチームの活躍、開催中の企画展「貝塚市の公共施設の移り変わり」などの展示と、国登録有形文化財である建物について社会教育課学芸員より紹介しました。その上で、参加さ



展示物の解説に耳を傾ける新入教職員のみなさん

れたみなさんにこの歴史展示館を紹介、宣伝するプレゼンテーションに取り組んでもらい、歴史展示館の魅力や「売り」など注目ポイントをそれぞれ報告していただきました。

館の見どころについては、さまざまな提案があり、今後の広報活動に役立つ内容が多く含まれていました。最後に、新入教職員のみなさんに、歴史展示館や郷土資料展示室をはじめ文化財に関する資料の提供などに積極的に協力し、それらを取り入れた授業に取り組んでもらえるよう呼び掛け、研修を終えました。

地域の歴史を知り、その大切さを理解できる小・中学生が増えるよう、引き続き学校教育分野との連携を強めていきます。

◆庄屋日記に見る農事暦と年中行事

今回も引き続き新型コロナウイルス感染対策として、令和3年9月下旬から10月下旬にかけて、水曜日と金曜日の2グループに分けて定員30名・5回の開催として、「庄屋日記に見る農事暦と年中行事」と題し、古文書講座を開催しました。



講義に聞き入る受講者のみなさん

今回の講座では、岸和田藩領畠中（はたけなか）村・神前（こうざき）村庄屋で、岸和田藩の七人庄屋（しちにんじょうや）として活躍した要源太夫（かなめげんだゆう）家に残る「日記」（貝塚市指定文化財要家文書）を読み進めました。

文政12（1829）年元日から始まり、十日戎（1月10日）、上巳（じょうし）の節句（3月3日、ひなまつり）、端午（たんご）の節句（5月5日）、重陽（ちょうよう）の節句（9月9日）に行うお祝い事や神社の参詣、人々のあいさつなど、時代を越えて今にも通じる話、その逆にすたれてしまったものなどを紹介しました。また、農業の進め方、肥料を入れたり、草を刈ったりと、どの季節に行われているかなどを読み解いていきました。

受講者の方からは「古来からの節目節目の仕事の内容（準備・食事）や人々の処し方が少し理解できた。」との感想が寄せられました。

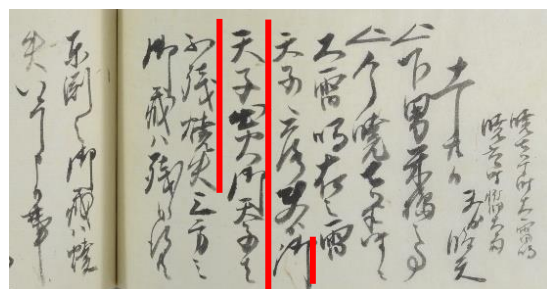
地域の歴史を>>検証>> その1

岸和田城天守閣が落雷により焼失

文政10（1827）年11月20日、岸和田城天守閣に雷が落ち、天守閣が出火し、残らず焼失しました。このできごとについては、上記講座でも取り上げた「日記」に、当時の様子が克明に記されています。

落雷は20日午前5時に起こり、天守閣と東渚（ひがしぶち）の櫓（やぐら）を焼失しました。上記で取り上げた要源太夫は、息子の米五郎（よねごろう）とともに午前7時に岸和田へ向かいました。米五郎には火事見舞いとして家老（かろう）をはじめ藩の役人宅を訪問させ、源太夫は佐野村庄屋で七人庄屋の藤田十郎太夫（ふじたじゅうろうだゆう）に会い、握り飯用の米の確保に当たりました。両村からは30人を握り飯持参で岸和田へ派遣しました。翌日の21日にも焼け跡の片付けに、同様に10人を派遣しました。翌々日の22日には岸和田藩領全体で240人が片付けに出向き、源太夫も現場で指揮しました。続く23日には米五郎が親戚の大坂商人若江屋新兵衛（わかえやしんべえ）からの火事見舞いを、家老宅などに届けました。約1か月後の12月18日、代官は村々に対しこの火事でのけが人調査を行い、両村からは、けが人がなかったと返答しています。これが一連の天守閣焼失の記録です。

なお、天守閣は焼失から127年後の昭和29（1954）年、建築家池田谷久吉（いけだやひさきち）の設計で、五層を三層に、高さも約22mに抑えた形に建て直し、今日に至っています。



「日記」（文政10年11月20日の冒頭）
傍線部に「御天子（＝天守閣）出火、御天子は不残（のこらず）焼失」とあります。

文化財講座・セミナー・展示

令和4年

◆ 3月

〔歴史〕企画展「貝塚市の公共施設の移り変わり」 〈～3月31日(木)〉

〔郷土〕1月26日、2月2日・9日・16日、3月16日(水) 13:15～15:45

古文書講座66 〔1班〕「貝塚寺内と堺奉行所」

〔郷土〕1月28日、2月4日・18・25日、3月11日(金) 13:15～15:45

古文書講座66 〔2班〕「貝塚寺内と堺奉行所」

〔郷土〕特別展「国宝孝恩寺観音堂(釘無堂) 令和の大修理Ⅱ」

〈3月10日(木)～4月24日(日)〉

〔郷土〕12日(土) 第125回かいづか歴史文化セミナー 記念講演会

「国宝『孝恩寺観音堂』 令和の大修理」



◆ 4月

◆ 5月

〔郷土〕「貝塚市の指定文化財」展 第1期 〈5月14日(土)～7月3日(日)〉

※〔郷土〕：郷土資料展示室・郷土資料室、〔歴史〕：歴史展示館

歴史展示館 企画展「貝塚市の公共施設の移り変わり」

令和4年3月31日(木)まで開催中！



令和4年3月新庁舎整備工事が完了して、いよいよ5月から供用開始となる市役所本庁舎をはじめとする公共施設の移り変わりを紹介しています。

〈会期中の休館日〉
毎火曜日、
3月21日(月)

完成間もない現在の市役所本庁舎[昭和40(1965)年撮影]

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、上記イベントは開催延期・変更・中止となる場合があります。ご理解をお願い申し上げます。



かいづか文化財だよりテンプス76号



令和4年3月10日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1
Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053
Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp
※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。
年3回発行：各1,000部



貝塚市イメージ
キャラクター
つげさん
貝塚市特産品「つげ櫛」
をモチーフとしたデザ
イン。